

## 総合計画等との関連

<b>重点戦略</b>	重点戦略6 誰もが個性と能力を發揮しながら、心豊かに暮らせる社会の実現		
<b>政策</b>	多様な主体との連携・協働による新しい価値の創造	<b>市長公約</b>	約束1-6
<b>政策指標</b>	地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数		

## 現状・課題

### 【これまでの取り組み】

地域が持続するためには、地域の人々が、主体的に協働して地域を担うことが大切であるが、少子高齢化や地域課題の多様化に直面する中で、多くの地域でその対応が難しくなっている。特に、祭りや季節行事、地域資源を活かしたイベントなど、賑わいを創出し、地域の特徴を内外に発信するような活動が地域から無くなりつつあり、それによる相対的な魅力低下が移住者や交流人口・関係人口の拡大を阻む要因の一つとなっている。

地域の「人」自らが地域を担う体制を強化するため、令和5年度から、地域で意欲的に活動する人達のコミュニティ形成とそこから生まれる取組を支援してきた。

### 【課題】

活動する人達のコミュニティ形成とそこから生まれる取組支援を行う中で、下記の課題がある

- ①地域の人や活動をつなぎ、コミュニティを形成・発展させることができる人材の育成
- ②コミュニティの数が増加していくことへの対応（支援する側のマンパワーと資金）
- ③コミュニティから新たに生まれる取組の運営資金



地域人材コミュニティ（北区）

## 事業概要・実施スキーム

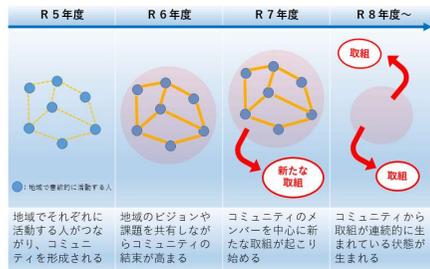
### 【事業概要・事業費内訳】

地域で意欲的に活動する「人」に着目し、そうした人同士のコミュニティづくりをサポートするとともに、そこから生まれる取組を支援することで、地域の「人」自らが主体となる持続可能な地域づくりを行う。

### 【事業効果】

地域の「人」自らが主体的に地域を運営する体制の構築

- ・地域で主体的、意欲的に活動する人達が可視化
- ・こうした人達同士の新たなコミュニティが形成
- ・コミュニティから地域に合った課題解決やまちづくりに向けた取組が自立的に創出



### 【各区の取組事例】

#### <秋葉区> 「タイトル未定」

区内で個々に活動する団体をつなぐ集まりを開催。学生や社会人、起業家など若手中心に140名の方が参加。とがった活動している団体の事例紹介や、皆に伝えたいことの1分間ピッチなどを実施。その後、個々の活動を紹介するSNSサイトの立ち上げや、活動資金調達を行うクラウドファンディングポータルサイトの運営構想に発展している。



#### <西蒲区> にしかんみらいBASE

35歳以下の若手を中心とした新たなコミュニティ形成と変化を狙い、昨年12月にキックオフミーティングを開催。今年は、テーマ別に地域の課題や対応策などについて検討を行い、例えば、教育の分野からは地域の子どもたちに向けたフリースクール（寺子屋）の立ち上げに向けた動きなどが起こっている。



### 【人材】 地域の人と人をつなぐハブ人材の登用…新規

地域の人や活動をつなぎ、その活動にも伴走するハブとなる人材を各区に配置する。総務省の地域おこし協力隊制度を活用して人材を登用する。



### 【機会】 人材や活動がにつながる機会（場）の創出…拡充

各区に複数のコミュニティが立ち上がる状況に発展してきていることから、このサポートを拡充する。上記、地域おこし協力隊は、この場の運営やコーディネートを担う。



### 【資金】 クラウドファンディング型ふるさと納税による資金調達支援…新規

各区のコミュニティの中から新たに生まれる取組（例：地域へのロケハン誘致、地場産マルシェの開催など）の運営資金調達を、クラウドファンディング型ふるさと納税によって支援する。寄附者と取組実行者が接点を持つことで、交流人口や関係人口の拡大も期待できる。

#### ※地域おこし協力隊

都市地域から地方に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定借を図る取組。任期は最長3年。

#### ※クラウドファンディング型ふるさと納税

ふるさと納税制度の本来の目的である「地域を応援したい」、「地域に貢献したい」という純粋な思いをより事業に反映させるため、寄附金の使い道として具体的な事業を示し、その事業に共感した方から寄附をしてもらう仕組み。

## 今後のスケジュール

令和7年度 各区に複数のコミュニティが形成・定着

コミュニティから新たに生まれる取組の支援と伴走

令和8～9年度 コミュニティから継続的に生まれる複数の取組の支援と伴走

令和10年度以降 コミュニティにおける行政の役割定義とその制度化